

(仮称)神戸アリーナプロジェクト

計画の概要

1. 景観影響建築行為予定者の氏名及び住所

エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 代表取締役社長 辻上 広志
東京都千代田区外神田4-14-1

2. 設計者の氏名及び住所

株式会社大林組一級建築士事務所 一居 康夫
東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟

3. 計画名称

(仮称)神戸アリーナプロジェクト

4. 景観影響建築行為の概要

- | | |
|------------|-----------------|
| (1) 所在及び地番 | 中央区新港町 130 番 2 |
| (2) 敷地面積 | 約 23,696 平方メートル |
| (3) 建築面積 | 約 12,863 平方メートル |
| (4) 延べ面積 | 約 32,207 平方メートル |
| (5) 高さ | 約 45.3 メートル |
| (6) 構造 | S 造一部 SRC 造 |
| (7) 階数 | 地上 7 階 |
| (8) 建物用途 | 観覧場 |



完成予想図

協議の経過及び内容（計画段階）

1. 計画段階デザイン協議の申出年月日

令和4年6月29日

2. 景観アドバイザー専門部会の開催年月日

令和4年7月11日

3. 良好な景観の形成に関する評価を神戸市長から通知した年月日及び内容

令和4年7月14日

- ・広場空間について、利用方法を見据え、空間の広がりや連続性、しつらえにも留意して突堤全体で適切に配置するよう検討してください。
特に北側の公共空間は施設利用者以外の市民が利用しやすいよう、規模・配置・形態・しつらえに十分配慮して下さい。
また、市が整備する外周部の緑地等と一体感のある空間となるよう、担当部局と十分に調整してください。
- ・建物デザインについて、大ボリュームとなるメインアリーナを中心に、シンプルで軽やかなデザインとなるよう形態やディテールを検討するとともに、ウォーターフロントエリアにふさわしい透明感や視線の抜け感のあるデザインとなるよう検討してください。
- ・夜間景観について、空撮時の見え方にも配慮して、ウォーターフロントエリアを象徴するライトアップを検討してください。
また、KOBE ライトアップ DAY などの取り組みと連動できる照明設備の導入についても積極的に検討してください。

4. 神戸市長からの評価に対する景観影響建築行為予定者からの回答年月日及び内容

令和4年8月25日

- ・広場空間は具体的な利用方法を想定し、目的に対して適切なスケール感に合わせます。北側の公共広場や第一突堤からの連続した空間について、神戸市港湾局、景観政策課等の担当部局と十分に調整の上で突堤全体での一体的なデザインとなるよう配慮します。
- ・屋根や外壁形状のディテールや構成を見直すことにより、シンプルで軽やかなデザインとなるよう検討します。
また、ファサードのガラス開口部分の位置や形状を見直すことで透明感や抜け感のあるデザインとなるよう検討します。
- ・屋根上面を照らすなど、効果的に屋根形状を際立たせ、象徴的な夜間景観を形成するよう検討します。KOBE ライトアップ DAY などの取り組みと連動できる照明設備についても検討します。

5. 景観アドバイザー専門部会の開催年月日

令和4年9月20日

6. 良好な景観の形成に関する評価を神戸市長から通知した年月日及び内容

令和4年9月27日

- ・建物デザインについて、特に屋根の形状・色彩・素材に配慮し、軽やかなデザインとなるよう、更に検討してください。

なお、建物全体の色彩については、屋根の影も考慮しつつ、ウォーターフロントの景観に馴染むよう検討してください。

- ・ランドスケープについて、照明計画も含め、突堤全体で一体感のあるデザインとなるよう担当部局と引き続き調整してください。

また、イベントの有無に関わらず、昼夜魅力的な空間となるよう検討してください。

7. 神戸市長からの評価に対する景観影響建築行為予定者からの回答年月日及び内容

令和4年11月25日

- ・建物デザインについて、軽やかなデザインとなるよう、屋根の形状・色彩・素材に配慮してディテールの検討を行います。建物全体の色彩については「屋根を軽やかに見せる」という建物のデザイン意図に沿いながらウォーターフロントの景観に馴染むよう検討いたします。

- ・ランドスケープと照明計画について、計画敷地内だけではなく緑地部分を含めたエリア全体で一体感のあるデザインとなるよう検討を進めます。また、イベントの開催時、非開催時ともに昼夜魅力的な空間となるように検討いたします。

協議の経過及び内容（設計段階）

1. 設計段階デザイン協議の申出年月日

令和4年11月25日

2. 設計段階デザイン協議の申出があった旨の公告年月日

令和4年12月2日

3. 設計段階デザイン協議の申出に係る書面等の縦覧期間及び場所

令和4年12月2日から同年12月15日まで

神戸市都市局景観政策課窓口

4. 市民等に対する説明の日時及び場所

令和4年12月10日（土）9時30分から

神戸市中央区小野浜町1丁目4番

デザイン・クリエイティブセンター神戸 303号室

5. 市民等に対する説明結果の提出年月日

令和4年12月15日

6. 市民等に対する説明結果の主な内容

- 施設内に飲食店舗、物販店舗は何店舗の出店計画があるのか。
また、店舗形態はテイクアウト型店舗か。イートイン型店舗か。
→ 店舗は約7~8カ所を考えています。
また、施設内の場所により、テイクアウト型店舗とイートイン店舗の複数の形態を検討しています。
- 駐車場についてはどう考えているか。決まっている範囲で教えてほしい。
→ 施設計画では、1万人規模の方が車で来られると大渋滞が発生すると予想されるため、基本的に徒歩での来場を想定しています。
今回のアリーナは都心型で（三宮駅から）徒歩でアクセスできることを前提としていますが、一部タクシーやシャトルバスによる運行等も検討しています。
- 以前公表されていた資料では高さ30Mであったが、今回45Mに変更になったと考えていいか。
→ 限りある敷地の中で、パフォーマンス且つ価値を高める計画を検討した結果、当初より高さを高くする計画となりました。
- 当初計画より床面積も増えているが、事業背景を教えてください。
→ アリーナとして必要なバックヤードを拡張していきたいと考えています。
また、これまでの体育館のように試合を見てすぐ帰るような施設ではなく、来ていただいた方々に長時間ゆっくり滞在して頂けるよう、スナッキングなど楽しんで頂けるように施設を計画しています。
その様な事業背景の中で床面積も以前より増やしています。
- 神戸市に聞くべきかもしれないが、2025年にアリーナが完成予定にもかかわらず、北側の倉庫は開発未定であり、現在の環境としてはあまり好ましくない状況である。アリーナ開業までにどのように整理されるのか。
→ 周辺の整備状況についてですが、将来的には周辺を遊歩道として整備し、ご来場の方々が自由に歩き回って頂けるよう計画したいと思っております。
- 駐車場への動線はどのように考えているのか。
→ 北側基部からアリーナ西側には人、東側には車と動線を分けて計画しています。車椅子対応用駐車スペースも設けています。

7. 景観アドバイザー専門部会の開催日時

令和4年12月26日

8. 良好な景観の形成に関する評価を神戸市長から通知した年月日及び内容

令和4年12月28日

- ・建物デザインについて、現段階の色彩計画をもとに、特徴ある屋根等がより軽やかに見えるよう、色彩や屋根を支える斜材等のデザインの構成要素をさらに整理してください。

特に屋根の形態については近景・遠景からの見え方を十分に検証し、ディテールの調整を検討してください。

- ・外構計画について、現在の植栽計画を基本として、要所に様々な規模の樹木を組み合わせさせて配置し、変化のあるランドスケープとなるよう検討してください。検討にあたっては、新港第一突堤基部再開発エリアの植栽の要素を取り入れる等、周辺との連続的な景観形成にも配慮してください。

南側駐車場周りの植栽は、駐車スペースや外周部の緑地とも調整して修景に努めてください。

- ・夜間景観について、イベント非開催時でも魅力ある夜間景観を形成できるよう、ウォーターフロント周辺の歩行者の目線高さからの見え方にも配慮して、中低木等の外構や建物低層部のライトアップを検討してください。

また、KOBE ライトアップ DAY などのカラーライティングの導入箇所や手法等については、都心ウォーターフロントエリア全体で連携できるよう担当部局と調整してください。

9. 神戸市長からの評価に対する景観影響建築行為予定者からの回答年月日及び内容

令和5年1月17日

- ・建物デザインについて、南北大庇を支える斜材等の色彩を整理することで、屋根等（南北大庇と東西上部目隠し壁）がより軽やかに見えるように検討します。屋根の形態について、近景・遠景の視点を考慮して、屋根等の軽やかさや一体感が実現されるようにディテールを調整検討します。

- ・外構計画について、変化のあるランドスケープとなるよう樹種の組み合わせを検討します。また、新港第一突堤基部再開発エリアの植栽計画との関係性にも配慮し、周辺との連続的な景観形成に配慮します。南側駐車場周りの植栽は、駐車スペースや外周部の緑地とも調整して修景に努めます。

- ・夜間景観について、イベント非開催時でも魅力ある夜間景観を形成できるよう、ウォーターフロント周辺の歩行者の目線高さからの見え方にも配慮し、外構植栽や建物低層部の照明計画を検討します。また、KOBE ライトアップ DAY などのカラーライティングの導入箇所や手法等については、都心ウォーターフロントエリア全体で連携できるよう、屋根廻りの演出照明等検討し担当部局と調整します。

10. 協議の成立年月日

令和5年1月23日